

# 会員の ひろば

## 「遣唐使」について

小樽市医師会  
野口内科病院

本間 勉

### 1. 文献紹介

東野治之著：大阪市立大学大学院卒、大阪府西宮市生れ、奈良大学教授、日本古代史・文化財史科学専門

### 2. 日本と中国の正式な国交(古代)

- ①1500年間の1/3程度である。
  - ②邪馬台国時代 (3世紀)
  - ③倭の五王時代 (4~5世紀)
  - ④遣隋使・遣唐使派遣時代 (7世紀)
  - ⑤「明国貿易」室町時代 (15世紀)
- } 200年間
- } 300年間

註. ②~③時代の大使派遣回数是不詳

- ④遣隋使派遣は3-4回？  
遣唐使派遣は7回 (838年菅原道真中止とす)

### ⑤遣明国使派遣は9回

- ・遣隋使小野妹子が中国側の質問“倭国の君主は誰”に答えた阿每多利思北孤は妹子の先祖に一致するという(謎多い、男子名なので推古天皇に非ず)。
- ・聖徳太子作という国書「日出づる処の天子書を日没する処の天子に致す恙なきや云々」は中国の仏典“大智度論”の引用であるという(不可解である)。
- ・遣隋・遣唐使は皇族を指命しない。無事帰還が60%位で悲惨だからかと思う(天皇家中心のためである)。
- ・遣唐使派遣は20年に一度と唐に約束している。
- ・則天武后(唐皇帝高宗の妻)は736年の“史紀”に倭国を「日

本」と改めたとある。

- ・菅原道真の遣唐使派遣中止時代は太政官の指令で“入唐使”(下級官吏)を派遣して物品の交流(貿易)をなさしめたという。

### 3. 帆船と航路と入唐

- ①遣唐使船1回の船隻と乗員
  - ・4隻400人×4、5隻590人×5(図1)
  - ・半数上陸許す(半数の水平→漕ぎ手は船内)

#### 長安・洛陽への旅

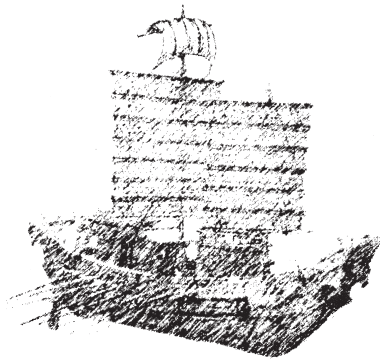


図1 遣唐使の帆船

### ②入唐コース(図2)

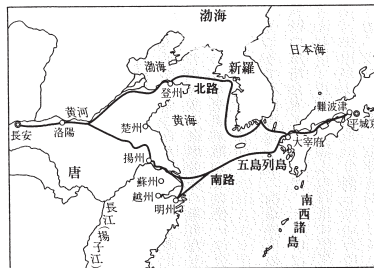


図2 遣唐使の通った道

- ・北 路…平城京→難波津(大(隋代)阪)→瀬戸内海→大宰府→対馬渡り→釜山→新羅道コース→百濟(ソウル)→山東半島(黄海)→登州→黄河→洛陽→長安
- ・南 路…平城京→難波津→瀬戸内海→大宰府→博多(筑紫大津)→五島列島→明州(東支那海横断)→蘇州→揚州→黄河→洛陽→長安

(中国大陸東部沿岸の方々には到着して近くの都市に集合してから長

安派遣の案内使者が先導して都に向った)

### 4. 遣唐使入唐規約

- ・上陸許可は半数のメンバーのみ(漕ぎ手は不可)。
- ・許可なくして自由行動はできない。
- ・留学者(仏教・文化等)は年次制度2年があり、私的に帰国できない。
- ・上陸メンバーは次期遣唐使船の到着を待って帰国する。残留メンバーが溜って多い時は何年も待つことになる。
- ・無事帰国者には特別の昇級と3年間の免税あり。
- ・遣唐使は“朝賀使”として唐の都の“元日朝賀の儀”に参列する原則があったので日本出発は8月~9月である。
- ・長期留学者阿倍仲麻呂・吉備真備の2人は717年遣唐使として同時入唐した。

氏名	入唐	出自	長期在唐	出世
仲麻呂	16才	中央名門出	58年間で死去	唐高官
真 備	23才	地方豪族出	16年間で帰国	右大臣

- ・阿倍仲麻呂は入唐時唐大学に合格し、科挙(国家試験)にも合格し、皇太子付“校書”(書物校正係)という清官(格式高い官職)になり、皇帝近持の“左補闕”までに昇りつめたが、752年遣唐使船で帰国の途に就いたが暴風雨のためベトナムに漂着して帰国できず、昇進して“安南節度使”となり唐に73才で没した。帰国許可の日「明州で詠んだ話題の万葉和歌」が有名である(望郷歌)。  
“天の原ふりさけ見れば春日なる御笠の山に出でし月かも”
- ・吉備真備は“四門学”・儒教(中国学の全分野)・礼・楽・射・御・書・数)の百科全書的知識をマスターして在唐16年間の唐朝留学手当を全て書物を買って持ち帰り朝廷に寄贈して「正倉院」に保管された。  
帰国後大学次官・東官学士となり孝謙天皇の教育係となって正二位右大臣になっている。

- ・定恵（藤原鎌足長男）は10才で入唐（21才で帰国した。仏典・漢文書に有能で外交にも貢献したが氏族とのトラブルや才能の妬みで百済人帰化人に毒殺された。
- ・靈仙（興福寺僧）は最澄・空海と共に25才で入唐し梵語（サンスクリット語→仏典の原著）の中国語訳に貢献して皇帝の内供奉（教授）に任命された語学の天才といわれた人であるが才を妬まれて彼も唐人に毒殺された。
  - 経典や仏舎利等多数嵯峨天皇に献上している。
- ・最澄・空海も仏教の短期留学として有名である。最澄は天台宗を学んで帰り本格的に布教し、空海は薬学生として31才で入唐し僧の資格を唐で得たのみならず、薬草の開拓や茶道の普及に貢献し、真言密教を度普及した。
- ・留学僧侶…道昭・道慈・玄訪・円仁等。
  - 中下級官吏の出身者であるが長期入唐して仏教界に大きな足跡を残している。
- ・「鑑真」来日…天台宗高僧慈恵が“東方の国で仏教を広めたが日本こそ戒律の栄える所”とした。このことを心に留めていた戒律の実践者・研究者で有名な鑑真を日本の留学僧2人が揚州大明寺で来日を要請した。弟子の反対を押し切って“渡日”を決意してから10年の間に失敗や妨害を5度も体験しても決意は固く、天平5年（752年）豪胆な遣唐副

使大伴古麻呂が独断で船に乗せて来日した。鑑真はこの10年間の苦勞で失明していたのであるが14人の僧と3人の尼僧が同行している。

「授戒の作法」(10人の律師→三師七証)や唐招提寺での活躍は知る所であると思う。

### 5. 遣唐使の構成と手当。

#### ①遣唐使メンバー

次の4部からなる。

- 使節・船員
- 隨員・留学者

#### ②使節メンバー

大使以下通訳まで(図3)が主役。(神主、卜部、陰陽師まで連行している)

	職名	絶(疋)	綿(疋)	布(端)	特別支給品
使節	大使	60	150	150	彩帛 117 疋, 贊布 20 端
	副使	40	100	100	彩帛 78 疋, 贊布 10 端
	判官	10	60	40	彩帛 15 疋, 贊布 6 端
	録事	6	40	20	彩帛 10 疋, 贊布 4 端
	史生(書記官)	4	20	13	
	雜使(庶務)	3	15	8	
	僱人(従者)	2	12	4	
通訳	訳語(唐語通訳)	5	40	16	彩帛 5 疋, 贊布 2 端
	新羅奄美等訳語	4	20	13	
船員	知乗船事(船長)	5	40	16	彩帛 5 疋, 贊布 2 端
	船師(機関長)	4	20	13	
	舵師(操舵手長)	3	15	8	夏冬の衣服
	挾抄(操舵手)	2	12	4	夏冬の衣服
	水手長(水夫長)	1	4	2	夏冬の衣服
	水手(水夫)		4	2	夏冬の衣服
技手	主神(神主)	5	40	16	
	卜部	4	20	13	
	医師	5	40	16	
	陰陽師	5	40	16	
	画師	5	40	16	
	射手	4	20	13	
	音声長	4	20	13	
	音声生	3	15	8	
技術研修生	玉生(ガラス・釉)	3	15	8	
	鍛生(鍛金)	3	15	8	
	鑄生(鑄金)	3	15	8	
	細工生(木竹工)	3	15	8	
留学者	留学生(長期留学)	40	100	80	
	学問僧(長期留学)	40	100	80	彩帛 10 疋
	僱従(従者)	4	20	13	
	還学僧(短期留学)	20	60	40	彩帛 10 疋
	請益生(短期留学)	5	40	16	

図3 遣唐使の構成と手当・役「延喜式」(大蔵省)より

- ・出発前の国内では“遣唐執節使”が天皇の希望により全権委任され“押使”が大使任命を伝えると天皇は節刀(大刀)を作らせて大使に与える。
- ③遣唐使構成メンバーの規定は8世紀半ばに成立し、延喜式(10

世紀前半編纂)に詳細に記録されている。

- ④派遣氏族は大伴・中臣・藤原・平群・石上・佐伯・粟田・多治比・石川等の大和朝廷の有名氏族が多いが次第に中小氏族や渡来氏族系出身者が多くなった。
- ⑤“知乗船事”(船長)は船内統括と朝貢品管理の役であり、“陰陽師”は占い師(卜部)と共に占いのみならず天文・気象の判断もしていた。“音声長”は行列・歩行の威儀を正す号令役と思われる。また、船を漕ぐ太鼓の調子を取る役もあった。
- ⑥遣唐使の手当は貨幣でなく織物や衣服であった(貨幣製造技術がなかった)。

### 6. 朝貢品(国信)

#### ①3つのグループ

- イ)絹製品(絶、生糸等)・麻布
- ロ)銀・鋳物製品
- ハ)油、樹脂、植物性甘味料

- ②工芸品でなく素材が主品(技術が未熟のため)
- ③銀は多産で金は砂金が主体であった。
- ④“例貢品”とは遣唐使持参の“朝貢品”のことで“別送品”とは唐からの使者に送る朝貢品である(図4)。

例貢品	銀	大	500 兩
	絶	水織絶	200 匹
		美濃絶	200 匹
		細絶	300 匹
糸	黄糸	300 匹	
	黄糸	500 絢	
	細屯綿	1000 屯	
別送品	綵帛		200 匹
	綿	疊綿	200 帖
		屯綿	200 屯
	布	紵布	30 端
		望陀布	100 端
	木綿		100 帖
	出火水精		10 顆
	瑪瑙		10 顆
	出火鉄		10 具
	海石榴油		6 斗
甘葛汁		6 斗	
金漆		4 斗	

図4 「延喜式」による朝貢品

- ⑤“出火水精”は火打石に用いる水晶であり、“出火鉄”は火打石に鉄を用いるので火を起す道具に使用する鉄鋳石のことである。メノウも同様であったらし

い。

⑥油は海石榴油つばきあまぎのしるで甘葛汁こしあじと金漆きんしつ、木綿もめんをいう。

屯綿は“つみわた”であり、綵帛は“さいはく”。

⑦その後は日本刀や和紙や金が朝貢品として喜ばれたという。

⑧「ブックロード」とは“シルクロード終着駅”のことで唐の長安・洛陽で西洋文明の濃厚な唐文化を接取したので中国の学者“王勇”が名付けたので有名であり、日唐文化交流の核心を突いていると思う。

## 7. むすび

東野氏著の文献（遣唐使）を読んで、古代日本政府の要人と国民を代表する文化人が悲惨な犠牲（航海）と莫大な資金と労力を投じてまで中国（唐）の文明文化を吸収したかったのであろうか、とつくづく思うのである。それはその国の政治・経済・国民生活向上を左右するからと思われる。

①造船技術と漕ぎ手（水手・水夫

の選抜。

古代日本の造船は、朝鮮や中国の帰化人技術者が主体であった。漕ぎ手は乗船者の半数が必要なので遣唐使メンバー（1隻590人の1/2）を各地方のベテラン漁師を募集しなければならない。590人も乗る船を造るには技術者も資金も並大抵ではないと思うのである。しかも遣隋・遣唐・遣明等合せて20隻以上は造船しており、その内40%は難波死傷しているらしい。

②遣唐使構成員選出

590人のメンバー選出は大変で多種多様な職種であるのにはただただ驚異を感ずる次第である。神主や占師・医者・画家まで乗船しているとは想像もつかなかった。

③朝貢品

銀が主体で、この頃銀産出は世界的に有名だったらしい。ただし彫刻品（芸術的技術不足）はほとんどなかった。絹織物は

多かつたらしいが中国製には見劣りする物ばかりであったと思う。メノウや水晶は彫刻品ではなく火打石の原料であったらしい。朝貢品すべてが貧弱であったと思うが遠くより多大の犠牲を払っての品々なので唐では一応感動して立派なお返しの品々を下賜されたのだと思う。

④資金の捻出

古代は貨幣使用はなく物々交換が主体でしたが、銀産出が多くなると銀が貨幣代りの使用が絹生品や農産物、水産物の物交であったので、税収も手当（給料）も物品であったと思う。

このような時代に遣隋使や遣唐使をお土産品をたくさん積んで大きな船を造って大勢の使節団を乗せて何度も中国に出すことは想像に絶する困難であったと思うが、古代の政府は文化吸収の目的で敢然と実行していたことにただただ頭が下がる思いで一杯である。

## 出張医

石狩医師会

### 御園生 潤

大学医局から出張医（日当直医）として私の勤務先病院を支えてくれているA先生はまもなく卒後10年目。はるか遠い首里の国から北海道の地に憧れて入局した。まさに「今が旬」の好青年の精神科医である。流行のワンウォッシュのブルトリップのジーンズと夏場にはさりげなくアロハシャツを抜群のファッションセンスで着こなして出勤してくる。最近流行の厚みのあるゴーグルタイプの「遮光眼鏡」も似合い、ついに私もその虜となってしまった。

大学での診療を配慮して、病院側でも出張医の勤務時間帯を調整してはいるが、当直明けの朝には、私が一寸早出して、医局からエレベーターで降りてくる彼を待ち、

「安静でした。よろしくお願ひします」]「どうもお疲れ様でした」と言葉をかわして別れてゆくシーンが毎週繰り返されてきた。

○

昭和60年代の私の大学院生時代には出張医としてさまざまな病院の診療に関わったが、実験で致し方なく遅れてしまった日など、土曜日の午後3時すぎまで、いやな顔一つ見せずに残り番として居残り、重症患者の経過を申し送って退勤する常勤医がおり、そうした折に、いろいろな世間話を通して、自分よりも20～30歳も年長の熟年・老年のベテラン医師から医師として生きてゆく上での教科書では学べないさまざまな知恵・注意・工夫などを多岐に渡って伝授してもらい自分自身の糧としたものであった。大学外で学んだそうした事項は現在の自分自身に確実に生かされている。

○

大学医局の深刻な人員減は全科におよび関連病院も常勤医や出張

医・日当直医の確保に必死である。時たま、A先生とも祝日の朝に申し送りが当たった場合は医局でしばしの間会話をかわすことがあるが、大学を離れて久しい私が久々にキャンパスを歩いてきた話や当時の大学の様子などを感慨深く聞いてくれ、また逆に、現在の大学の状況をつぶさに伝えてくれる若手医師からの情報は私にとっての宝物である。大学からのこうした出張医が、出張先病院でさまざまな医歴を持つ常勤医らと接触し、医学はもとより医師として生きてゆく上で無駄とならない雑学を学び、また大学外に固定した医師が大学の現状・実態をリアルタイムに知ることのできる人間関係がますます希薄になっている昨今。時代の推移と共に、厳しさ、淋しさを感じている医師は少なくないと思う。

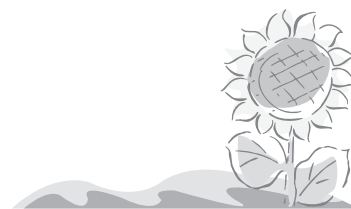
勤務先医局掲示板の次月度当直予定・変更希望申込書に、「こんなに変更をお願いして良いのだろうか」と学会・出張・大学医局行事

等に奔走する彼の言葉に一種のう  
いういしさを感じながらも、同時  
に昔日の私の姿を彷彿させられつ  
つ、「固定医になったら、お返しを  
する立場になるのだから…」と、  
心とつぶやく私である。

こうした厳しい時代が続く限り、  
出張医の予定を勘案して固定  
医が予定変更等の譲歩を示す姿勢  
はもちろんのこと、場合によって

は出張医同士の間での勤務予定の  
入れ替えが了解され、結着するこ  
ともある。

かような綱渡りの人員配置を  
見るにつけ、かつて大先輩に教  
わった「厳しい時代だからこそ、  
お互いが少しずつ譲歩して難局を  
乗り切ってゆかねばならないのだ  
よ」というフレーズが、しばしば  
頭に浮かぶ昨今である。



## 道医の動き

5月12日	三役会	5月21日	母体保護法指定医師審査委員会、医療保険に関する打合せ
5月13日	第3回常任理事会、緊急臨時的医師派遣体制整備事業検討会、広報委員会、医療政策部担当理事会	5月22日	医療関連事業部担当理事会
5月14日	医療保険部担当理事会、生活保護医療に関する打合せ	5月24日	第2回全理事会、医療政策部担当理事会
5月15日	産業保健活動推進委員会	5月26日	三役会
5月16日	医師会・医師国保組合事務連絡協議会	5月27日	第4回常任理事会、常任理事懇談会、北海道社会保険事務局との打合せ
5月19日	北海道議会自民党医療関連促進議員連盟役員との懇談会、元厚生大臣・津島雄二衆議院議員に対する陳情	5月28日	医事紛争処理委員会、医業経営・福利厚生部担当理事会
5月20日	学術部担当理事会、北海道医学大会幹	5月29日	都道府県医師会「公益法人制度改革」担当理事連絡協議会（深澤常任理事）
		5月30日	日医裁定委員会（島田委員）
		5月31日	洞爺湖サミット開催記念受動喫煙防止道民大会
		6月 5日	都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会（渡辺常任理事）
		6月 9日	三役会、第5回常任理事会、広報委員会
		6月10日	指定時講習会、日医理事会（長瀬会長）、日医役員就任披露パーティー（長瀬会長、飯塚顧問、三宅・畑各副会長）

## 北海道医報ファイルについて

北海道医報本誌を1年分綴ることができるファイルを用意しております。

ご希望の方には無償にてお送りいたしますので、下記まで送付先ならびに希望数をご連絡ください。

記

申込先：北海道医師会事業第一課

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目

TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233

E-mail ihou@m.doui.jp

